

一般社団法人日本臨床検査医学会 臨時社員総会 議事録

日時：2021年11月11日（木） 16：40～18：10
会場：富山国際会議場 3F メインホール（第1会場）
開催方法：現地とライブ配信でのハイブリッド開催
出席：現地参加（33名）
書面：議決権行使 158名、委任 0名

I. 開会

II. 理事長挨拶

開会に先立ち、評議員の米山彰子先生（虎の門病院 享年 64 歳：2021/5/13）、功労会員の高橋浩先生（元よろづ相談所病院 享年 94 歳：2021/7/26）、細萱茂実先生（東京工科大学 享年 69 歳：2021/7/26）、名誉会員の伊藤忠一先生（岩手医科大学名誉教授 享年 90 歳：2021/8/21）、名誉会員：上田國寛先生（神戸常盤大学 享年 81 歳：2021/9/5）の逝去を悼み黙祷がなされた。

当法人定款第 21 条により村上正巳理事長が議長となり、定時社員総会の決議にあたり社員数 200 名のところ社員出席、議決権行使、委任を合わせて半数を超えるため（191 名）、定款第 24 条により臨時社員総会で決議は成立することが報告され、代表理事のほか、評議員の東田修二先生を議事録署名人として議事を進めた。

第 68 回学術集会会長の北島勲先生から、「学際的臨床検査医学のおもしろさを広げよう」をメインテーマとして、コロナ禍のためハイブリッド開催するが多くの会員に参加いただきたいと一言挨拶があった。

1. 各種委員会活動報告（山田俊幸 庶務理事）

2020 年度各種委員会活動中間報告について、各委員会のまとめが資料として用意され、報告された。

1) 学術推進化委員会（委員長：萱場広之、担当理事：矢富 裕）

①本年度学術推進プロジェクト研究に 3 課題を採択。

- ・異常フィブリノゲンが創傷治癒に及ぼす影響とその評価法に関する研究（新井慎平、信州大学）
- ・すべてのアミロイドーシスに対応可能な診断システムの構築（田崎雅義、熊本大学）
- ・小児白血病/リンパ腫の診断・予後因子・治療標的に関わる RNA パネルシーケンス解析の精度管理法の開発研究（渡辺悟、国立成育医療研究センター）

②昨年度採用課題中間報告受理。

③一昨年度採用課題最終報告（第 68 回学術集会）。

2) 編集委員会（委員長：福地邦彦、担当理事：吉田 博）

①優秀論文賞候補論文を選出し、学会賞委員会に報告した。

②和文誌雑誌名を 69 巻 1 号（2021 年）から、改称と A4 版サイズに変更を経て日本臨床検査医学会誌が発刊された。

③上記②の学会誌に関するアンケートを評議員に対し実施した。「日本臨床検査医学会誌」への名称変更および A4 版へのサイズ変更については、回答者の約 90%から「良い」との回答を得た。表紙デザインについては「良い」とする回答は 63%であった。

アンケート結果に基づき表紙については変更を検討し、新たなデザイン案を作成中である。

④電子版英文誌 Laboratory Medicine International の発刊準備として、J-STAGE への登載および ISSN の取得手続きが進行中である。

投稿・査読システムのプラットフォームの比較検討、発刊事業に伴う初年度予算は一般会計のなかで補正予算を立てて対応する予定である。

3) 教育委員会（委員長：橋口照人、担当理事：山田俊幸）

- ①第 76 回日本臨床検査医学会関東甲信越支部例会に合わせて、教育委員会主催 RCPC を開催した。
- ②第 5 回医学生・研修医のための臨床検査ハンズオンセミナー（主催：ワークライフバランス委員会）を共催した。
- ③第 68 回日本臨床検査医学会学術集会 教育委員会企画
 - ・RCPC 1、2（臨床検査領域講習各 1 単位）
 - ・Catch Up セミナー 3 演題（臨床検査領域講習各 1 単位）
- ④常設 e-learning を年内に開始予定

4) 臨床検査点数委員会（委員長：古川泰司、担当理事：東條尚子）

- ①今年度第 1 回委員会を、4 月 12 日に WEB 開催で行った。同月末締め切りの内保連宛、次期診療報酬改定に向けての提案書について、先に行われた評議員アンケートに基づき、項目の確認、提案内容の詳細についての意見収集、提案順位の決定を行った。同内容決定については、臨床検査振興協議会、共同提案団体からの提案、要望を確認の上で決定した。
- ②上記提案内容決定にあたり、委員会で施行したコスト調査については、日本臨床検査振興協議会へ提出され提案時に使用された。
- ③内保連への提案件数は当初 43 件であったが、最終的には 36 件（未掲載 3 件、既掲載 33 件）の提案となり、4 月 30 日に提出された。
- ④上記提出案件について、内保連の提案内容ヒアリングが 5 月 13 日に行われた。厚生労働省とのヒアリングは 8 月 2 日に行われ、特に微生物学的検査と血液採取（静脈）の増点について議論された。
- ⑤日本医師会・疑義解釈委員会（月 2 回開催）から、供給停止予定の体外診断薬がある場合、学会に通知があり、委員会で稟議のうえ意見返答を継続しているが、今年度、異議申し立ては行われていない。

5) 学会賞委員会（委員長：大林光念、担当理事：田部陽子）

- ①2021 年 8 月 17 日（火）に Zoom 開催された学会賞選考委員会で受賞候補者を選出し理事会に報告、理事会にて受賞者が決定された。受賞者は下記の通りである。学術賞（菊地良介氏）、検査・技術賞（該当者なし）、若手研究者奨励賞（鈴木敦夫氏、藤森祐多氏、相原正宗氏、水野元貴氏、川元康嗣氏）、優秀論文賞（松本信也氏、越智小枝氏）。
- ②日本臨床検査医学会学会賞募集要項の文言一部変更について、理事会での審議を依頼した。
- ③若手研究者奨励賞と優秀論文賞の選考方法に関して、理事会での審議を依頼した。

6) 標準化委員会（委員長：三井田孝、担当理事：前川真人）

- ①標準化委員会作成の「学生用共通基準範囲」の株式会社医薬情報研究所によるドラッグノート 2022 へ転載申請を承認。
- ②10 月 11 日に Zoom 会議を行い、C ペプチドの標準化に向けてのプロジェクトを、日本臨床化学会、日本臨床検査薬協会と共同で行うことが提案され、問題点などを議論した。IFCC から値付けされた標準物質、測定用の試料などが提供されるのか確認中。

7) 精度管理委員会（委員長：山田俊幸、担当理事：前川真人）

- ①CAP サーベイについて
参加施設は 198 で、昨年より 77 増えた。Covid19 関連サーベイの参加による。
- ②臨床検査室グローバルニュースを年 4 回刊行した。

8) EBLM 委員会（委員長：片岡浩巳、担当理事：大西宏明）

- ①第 68 回学術集会（富山）にて、EBLM 委員会企画・教育セミナーを以下の計画で開催することとした。
テーマ：「臨床検査領域に対する統計・機械学習的アプローチ」
座長：片岡浩巳（川崎医療福祉大学）
講演内容：
1) 臨床検査の診断的有用性の評価法：その統計理論と使い方の実際 市原清志（山口大学）
2) クラスタ解析と次元圧縮事例 佐藤正一（国際医療福祉大学）

9) 倫理委員会（委員長：横崎典哉、担当理事：古川泰司）

①2021年6月岩手医科大学主管で開催された第63回医学系大学倫理委員会連絡会議（学術集会）において委員長が「残余した臨床検査に供した検体の取扱いについて ～日本臨床検査医学会の見解を中心に～」の講演を行った。

②「臨床検査を終了した既存試料（残余検体）の研究、業務、教育のための使用について 日本臨床検査医学会の見解 2021年改訂」の原案を作成した。2021年10月16日開催の理事会にて承認され、学会ホームページおよび日本臨床検査医学会誌69巻第10号巻頭に会告として公表した。

③第68回日本臨床検査医学会学術集会にて講演会「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針の施行にあたって」を企画し開催した。

10) 利益相反委員会（委員長：横田浩充、担当理事：古川泰司）

①2020年度COI自己申告書未提出者（14名）について催促状の対応（2020.12）を行ったが、なお6名が未提出であり再催促（2021.3）を行った。最終的に未提出2名となり、この2名については対象の委員会委員長へ次回委員会委員推薦の際に推薦不可である旨、事務局より伝えた。

②2021年1月より当学会の機関誌名が日本臨床検査医学会誌へ変更となった。

これにともない、学会HPに掲載されている「医学研究の利益相反（COI）に関する指針」「医学研究の利益相反（COI）に関する細則」「学会誌 論文投稿時のCOI自己申告書」の機関誌名の部分を日本臨床検査医学会誌に修正（2021.4）した。

③演題発表時のCOI開示書式（様式1-ABC）について、⑨ 試薬・機器・役務等の供与を追記および一部文言の修正を行った。

11) ガイドライン作成委員会（委員長：大西宏明、担当理事：吉田 博）

①今年中の改訂ガイドライン発行に向け、製作作業が最終段階に入っている。全ての原稿が入稿され、大部分について査読も終了している。

②今回新たに項目立てに設けられた「あるべき検査室の姿」については、臨床検査室医療評価委員会各位に多大なるご協力をいただき、完成に至ることができた。

③学術集会期間中の11月12日（金）14時からオンラインで委員会を開催し、ガイドライン2021発刊直前の確認等を行う予定である。

④11月13日に開催される日本医療機能評価機構主催の「【Minds】第23回診療ガイドライン作成に関する意見交換会」に、吉田担当理事および大西委員長がオンラインで参加予定である。

12) 広報委員会（委員長：木村 聡、担当理事：✕谷直人）

①JACLaS 展示会において日本臨床検査医学会のブースを設営

・本学会ホームページ掲載の「新型コロナウイルス検査の課題と本学会の対応」内容を印刷、配布・QRコード掲示による上記掲載内容のご案内

・年次学術集会ポスター掲示による周知活動を行った

②11月11日 臨床検査の日 一般社会への宣伝について

この日を記念日とする一般企業と協賛し、web上での宣伝、啓発活動を行う

③レジデントノート誌への「検査のTips」連載、五十嵐岳委員を中心に4年目に突入

④今後の活動は11月13日開催の広報委員会で審議

13) 臨床検査室医療評価委員会（委員長：✕谷直人、担当理事：長沢光章）

① ISO 15189 認定の現状に関するアンケート調査の結果について日本臨床検査医学会誌に投稿し掲載された。

②本学術集会時の11月12日に委員会を開催する。

14) 遺伝子委員会（委員長：前川真人、担当理事：宮地勇人）

①倫理委員会で改訂中の「臨床検査を終了した 既存試料（残余検体）の研究、業務、教育のための使用について」、ISO/TC 215/SC 1 の新規作業項目提案に対し、コメント提出。

②日本医学会医学用語管理委員会からの遺伝学用語改訂の最終報告に承認と回答。

- ③日本病理学会と合同WG「がんゲノム検査全般に関する指針」策定の作業を再開。
- ④リキッドバイオプシー検査（がんゲノム医療、出生前検査）の質保証について検討中。

15) 国際委員会（委員長：小柴賢洋、担当理事：宮地勇人）

- ①2021年度国際学会奨励賞受賞候補者を選考し、松尾英将、波野史典の2氏を受賞者として推薦した。
- ②Laboratory Medicine Congress & Exhibition (LMCE) 2021 (Sept 30-Oct 2, 2021、Songdo Convensia, Incheon, Koreaにて開催)におけるAsian Symposium「COVID-19 Laboratory Diagnosis in Asian Countries」のシンポジストとして三枝淳氏（神戸大学）を推薦した。
- ③World Association of Societies of Pathology and Laboratory Medicine (WASPaLM) 2022 (May 5-8, 2022、ウルグアイで開催予定)におけるASCPaLMセッション「Leadership of Clinical Laboratory for COVID-19 pandemic to share experience from each countries」に、宮地勇人 理事を演者として推薦した。東京オリンピック・パラリンピック大会でのコロナ検査について発表の予定。

16) 医療安全委員会（委員長：藤井 聡、担当理事：大西宏明）

- ①2021年11月12日（金）10：00～12：00 第68回学術集会にて委員会企画1「ウィズコロナ・アフターコロナの臨床検査：何が変わり、何が変わらないか」を開催予定。
《演者：森兼啓太先生、上原由紀先生、長尾美紀先生 座長：藤井 聡、大西宏明》
- ②2021年11月12日（金）18：00～19：00 医療安全委員会を開催予定。
- ③2021年11月23日（火）「医療安全全国フォーラム2021」（webセミナー）に藤井委員長が予定。

17) 会則改定委員会（委員長：谷直人、担当理事：東條尚子）

- ①本学術集会時の11月13日に委員会を開催する。

18) チーム医療委員会（委員長：小谷和彦、担当理事：田部陽子）

- ①「在宅医療」、「タスクシフト」、「COVID-19対応」におけるチーム医療への参画について検討している。
- ②医療安全の面から医療現場に反映させる方向で、「パニック値の運用」に関する提言をまとめ、本学会の理事会承認を得た。関連団体（日衛協等）の意見交換を経て、まもなく公開する。今後、「施設間のパニック値の設定の差異」、「提言を受けた現場対応の変化」について全国調査を実施する予定である。

19) 学術集会企画委員会（委員長：山田俊幸、担当理事：小柴賢洋）

- ①第71回集会長推薦の支部候補として北海道支部と近畿支部を理事会に答申した。

20) ワークライフバランス委員会（委員長：田部陽子、担当理事：山田俊幸）

- ①臨床検査専門医取得に関するサポートセンターで12件の問い合わせに回答した(1月1日-10月6日) (担当：千葉泰彦 委員)
- ②第5回 ハンズオンセミナーをWeb開催した。日時：2021年8月1日（日）13時～17時、共催：日本臨床検査医学会近畿支部、教育委員会、日本臨床検査専門医会 (担当：西川真子 委員)
- ③第68回日本臨床検査医学会学術集会でワークショップ (RCPC challenge、臨床検査医 交流・向上ワーキンググループ企画) を実施する (担当：五十嵐岳 委員、増田亜希子 委員)。

21) 新型コロナウイルスに関するアドホック委員会（委員長：柳原克紀）

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の状況に応じながら、下記の提言を公表した。

- ①2021年5月27日：新型コロナウイルス変異株検査に対する考え方
- ②2021年8月24日：COVID-19における抗体検査についての基本的な考え方 (改訂版)

22) 受験・更新資格審査委員会（委員長：三宅一徳）

- ①2021年度の臨床検査専門医、臨床検査管理医の受験希望者の受験資格について審査を行い、臨床検査専門医・管理医審議会に報告した。
- ②今後、2022年1月1日付けでの臨床検査管理医、学会臨床検査専門医の更新資格についての審査を行い、臨床検査専門医・管理医審議会に報告する予定である。

23) 試験委員会（委員長：山田俊幸）

①第 1 回日本専門医機構認定臨床検査専門医試験ならびに第 37 回日本臨床検査医学会認定臨床検査専門医試験（専門医認定試験実行委員会報告参照）。

②第 13 回臨床検査管理医講習・試験を 8 月 22 日に東京医科歯科大学で実施した（管理医認定試験実行委員会報告参照）

24) 2020・2021 年度臨床検査専門医認定試験実行委員会（委員長：東田修二）

①臨床検査専門医試験（学会専門医として第 38 回、機構専門医として第 1 回）を 2021 年 8 月 22 日に東京医科歯科大学で実施し、新規 9 名（うち 3 名が機構専門医）、科目再受験 3 名の計 12 名が受験した。

②判定会議を 8 月 31 日に開催し、機構専門医 3 名と学会専門医 7 名（うち再受験 3 名）の計 10 名を合格とした。この判定は 9 月 10 日の臨床検査専門医・管理医審議会で承認された。

③機構専門医 3 名の合格は 10 月 18 日の日本専門医機構理事会で承認された。

25) 2020・2021 年度臨床検査管理医認定試験実行委員会（委員長：山田俊幸）

①第 13 回臨床検査管理医講習会・認定試験を 8 月 22 日に東京医科歯科大学で実施し、22 名が受験し全員が合格となった。

26) 日本専門医機構認定臨床検査専門医研修プログラム認定委員会・日本専門医機構認定臨床検査専門医更新資格審査委員会（委員長：山田俊幸）

①2022 年度専攻医募集用の研修プログラムの一次審査を行った。

②2022 年 1 月付機構認定専門医更新の一次審査を行う。

③更新単位となる講習会の認定を行った。

2. 第 69 回学術集会報告（宇都宮 2022/11/17(木)～11/20(日)、山田俊幸 会長）（村上正巳 理事長）

2022 年 11 月 17 日（木）～20 日（日）に、栃木県総合文化センター（メイン）、宇都宮東武ホテルグランデ（サブ）において、山田俊幸会長（自治医科大学）のもと、テーマ「地域社会に貢献する臨床検査」として現地開催を基本に開催予定でオンデマンド配信を検討していること、2022 年 5 月 13 日～6 月 17 日に演題募集期間とすること、河合忠先生が主催されてから 27 年ぶりの開催となることが報告された。そして、宇都宮市を紹介するビデオが流された。

3. 第 70 回学術集会報告（長崎 2023/11/16(木)～11/19(日)、柳原克紀 会長）（村上正巳 理事長）

2023 年 11 月 16 日（木）～19 日（日）に、出島メッセ長崎（2021 年 11 月開業）において、柳原克紀会長（長崎大学）のもと開催予定であることが報告され、柳原克紀会長から一言挨拶があった。

4. 機構第 1 回・学会第 38 回臨床検査専門医認定試験について（東京：2021/8/22(日)、山田俊幸試験委員長）

2021 年 8 月 22 日（日）、東京医科歯科大学医学部（東田修二実行委員長）にて、機構専門医、学会専門医試験を実施、機構専門医受験者 3 名、学会初回受験者 4 名、2020 年のコロナによる学会振替受験者 3 名、再試験受験者（科目受験）4 名：受験希望者合計 14 名、うち 2020 年のコロナによる学会振替受験者 1 名、再試験受験者（科目受験）1 名は、体調不良により欠席した。

8 月 31 日（火）に判定会議を開催し、9 月 10 日（金）に臨床検査専門医・管理医審議会を行い、機構専門医 3 名、学会専門医 7 名、合計 10 名が合格、初回受験者 1 名、2020 年のコロナによる学会振替受験者 1 名が不合格と判定されたことが報告された。

5. 第 13 回臨床検査管理医講習・認定試験について（東京：2021 年 8 月 22 日、山田俊幸 管理医試験実行委員長）

2021 年 8 月 22 日（日）に、東京医科歯科大学医学部において実施。当初の受験希望者は 38 名であったが、コロナの影響で 16 名が受験辞退で、22 名が受験し、22 名が合格と判定されたことが報告された。

6. 専門医関連事項について（山田俊幸 専門医担当理事）

- 1) 2027年1月1日付からの機構専門医更新基準が改訂されるが、主な内容としては、共通講習の必修講習が3種類3単位以上から、必修講習Aの3種類の3単位と必修講習Bの5種類5単位合計8単位以上となる、ただし、多様な地域における診療実績が認定された場合は必修講習Bの5種類が免除され、必修講習A3種類3単位以上で単位を満たすこと、更新日以前に臨床検査専門医として知るべき事項についてeラーニングシステムによる簡単な確認試験を受けて合格する必要があることが報告された。
- 2) 2021年9月29日付で、厚生労働省 医療法第六条の五第三項及び第六条の七第三項の規定に基づく医業、歯科医業若しくは助産師の業務又は病院、診療所若しくは助産所に関して広告することができる事項の一部を改正する告示が施行されたことにより、2021年10月1日から「日本専門医機構 基本領域 臨床検査専門医」の広告が可能となったこと、ただし、「日本臨床検査医学会 臨床検査専門医」は従来通り広告することはできないことが報告された。

7. 地域医療における臨床検査に関するアドホック委員会について（村上正巳 理事長、山田俊幸 担当理事）

日本専門医機構基本領域臨床検査専門医の更新基準で、機構からの案では義務とされていた地域医療への貢献については、結果として努力目標となり共通講習受講に振り替えられたが、本件をきっかけに、都道府県により臨床検査専門医の人数に偏りが見られることについて検討すべきと考え、山田担当理事、委員長として小谷和彦先生（自治医科大学）、各支部からの推薦による委員で、構成して本委員会を設置して、地域でどのようなニーズがあり、どのように対応していくのが良いのかを検討していくことが報告された。

8. 「臨床検査を終了した 既存試料（残余検体）の研究、業務、教育のための使用について—日本臨床検査医学会の見解— 2021年改訂（案）について（村上正巳 理事長）

倫理委員会で改訂した案について、理事、遺伝子委員会から意見を求めて再検討し、2021年7月3日、10月16日の理事会で承認を得た本見解が示され、第68回学術集会でも委員会企画として講演があり、今後、学会ホームページに掲載予定であることが報告された。

9. パニック値運用に関する提言（案）、パニック値一覧（別表）について（村上正巳 理事長）

2021年7月3日の第2回理事会に提示した後に、臨床検査振興協議会構成団体に意見を求めたが、特に訂正はなかった本提言、一覧が報告された。今後は、ホームページ等に掲載して、広く意見を求めていく予定である。

10. 細則の改定について（村上正巳 理事長、東條尚子 担当理事）

学術誌・機関誌を機関誌に統一すること、会員マイページ運用開始に伴う変更事項の反映、評議員候補者が満たす要件として機関誌投稿論文の査読に協力することを追加、また、それを評議員再任単位とすることなどを反映した細則の改定内容が報告された。

11. 第12回日本臨床検査医学会特別例会長の推薦について（村上正巳 理事長）

2023年4月15-23日に展示も含めて、第31回日本医学会総会2023が、メイン会場：東京国際フォーラム（および周辺）において、春日雅人 会頭、門脇孝 準備委員長、南学正臣 学術委員長のもと、メインテーマ：「ビッグデータが拓く未来の医学と医療～豊かな人生100年時代を求めて～」で開催されますので、それに合わせて、当会の第12回特別例会を開催することになるが開催場所が東京であるため、関東・甲信越支部より特別例会長を推薦いただく予定であることが報告された。

12. その他

特になし。

IV. 審議事項

1. 2021 年度事業中間報告について（山田俊幸 庶務担当理事）

2021 年度事業中間報告があり、承認された。（資料：別紙掲載）

2. 2022 年度事業計画案について（山田俊幸 庶務担当理事）

2022 年度事業計画（案）が提示され、承認された。（資料：別紙掲載）

3. 2021 年度中間実績報告・2021 年度補正・2022 年度予算案について（×谷直人 会計理事、村上正巳 理事長）

2021 年度中間実績は、2021/1/1～2021/6/30 までの実績額での報告である。

2022 年度予算案は、2021 年度を踏襲した。ただ、2022 年度に英文誌発行予定であり、その予算については、今後、編集委員会からの見積りにより補正予算を組んで対応することが報告され、審議のうえ承認された。

（資料：別紙掲載）

4. 定款の一部改定について（村上正巳 理事長、会則改定委員会：東條尚子担当理事、×谷直人 委員長）

定款の第 1 章総則に学会認定の専門医名称「名誉臨床検査専門医」を追加することが提示され、承認された。

5. 2022 年度からの名誉会員・功労会員・社員（評議員）の推薦について（村上正巳 理事長）

1) 名誉会員として理事会で承認された次の 5 名が提示され承認された。

賀来満夫先生 水口國雄先生、本田孝行先生、村田満先生、康東天先生。

2) 功労会員として各支部から推薦され理事会で承認された次の 14 名が提示され承認された。

大久保滋夫先生、北村聖先生、佐藤尚武先生、下村登規夫先生、谷口信行先生、菱沼昭先生、福地邦彦先生、松浦知和先生、石井潤一先生、竹下明裕先生、長坂徹郎先生、林伸英先生、藤田直久先生、中島収先生

3) 評議員（社員）として、各支部から推薦され理事会で承認された次の 14 名が提示され承認された。

梅森祥央先生、幸村近先生、藤巻慎一先生、出居真由美先生、堀内裕紀先生、村田光繁先生、上養良則先生、菟田明弘先生、岩津好隆先生、佐藤正一先生、岩津好隆先生、千葉泰彦先生、梅北邦彦先生、後藤和人先生、神力悟先生。

6. 評議員（社員）再任予定者（2021/01/01）について（村上正巳 理事長）

2022 年 1 月 1 日付評議員（社員）の再任手続きは、12 月下旬の評議員審査委員会での審査後となるが、評議員（社員）の再任には社員総会の承認が必要であるため、2022 年 1 月 1 日付の評議員（社員）再任予定者 44 名が提示され、再任単位を満たさない場合や辞任の場合は退任となることを前提としたうえで承認された。

7. その他（山田俊幸 庶務担当理事）

2021 年度に係わる定時社員総会は、2022 年 3 月 27 日（日）に開催されることが報告された。

V. 閉会（東條尚子副理事長）

東條尚子副理事長から閉会の挨拶があり、臨時社員総会を閉会した。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、議長及び議事録署名人がこれに記名押印する。

2022 年 2 月 21 日

一般社団法人日本臨床検査医学会臨時社員総会

議長 代表理事 村上正巳

議事録署名人 東田修二

2021年度 日本臨床検査医学会 総会だより

日時：2021年11月12日（金） 13：10～14：10

会場：富山国際会議場 3F メインホール（第1会場）

開催方法：現地とWEB：ライブ配信でのハイブリッド開催

出席：現地参加（60名）、オンライン（102名）

冒頭、村上正巳理事長より挨拶があった。

その後、第68回学術集会長の北島勲会長が議長となり、評議員の米山彰子先生（虎の門病院 享年64歳：2021/5/13）、功労会員の高橋浩先生（元よろづ相談所病院 享年94歳：2021/7/26）、細萱茂実先生（東京工科大学 享年69歳：2021/7/26）、名誉会員の伊藤忠一先生（岩手医科大学名誉教授 享年90歳：2021/8/21）、名誉会員：上田國寛先生（神戸常盤大学 享年81歳：2021/9/5）の逝去を悼み黙祷がなされ、議事を進めた。

臨時社員総会と同じ内容の報告がなされた。

東條尚子副理事長より、挨拶があり総会を閉会した。

総会終了後、機構臨床検査専門医一次合格証、学会臨床検査専門医認定証、国際学会奨励賞、学会賞・功労賞の授与、新功労会員、新名誉会員顕彰の表彰式が執り行われた。